

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	③-39	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	水道料、下水道使用料の徴収率の向上			事業終了年度	平成27年度
担当課名	管理課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	健全で安定的な経営を通じ、持続的なサービスの提供を行うため				
事務事業の目的	水道料、下水道使用料の徴収率の向上を図る。				
実施状況	3ヶ月以上の未納者に対して給水停止を実施し徴収率向上を図った。 納付相談を実施し分割納付等での納付の拡大を図った。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	30	48	48
	人件費(千円)	2,160	3,456	3,456
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		0	196	196

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		給水停止			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件数	259	258	250
	活動指標名②		分納誓約			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	24	279	60
成果指標	成果指標名①		水道徴収率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			%		87.5	87.5
				87.4	87.7	
			達成度(%)		100%	100%
	成果指標名②		下水道徴収率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			%		85.3	85.3
			87.5	87.9		
		達成度(%)		103%	100%	

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用者への公平性を保つため、滞納対策が必要であり、職員の対応は妥当であると思われる。</td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	使用者への公平性を保つため、滞納対策が必要であり、職員の対応は妥当であると思われる。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
使用者への公平性を保つため、滞納対策が必要であり、職員の対応は妥当であると思われる。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">口座振替の推進を図り、給水停止の実施により収納率の促進に努めていると考えられる。</td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>0 / 6</b>	口座振替の推進を図り、給水停止の実施により収納率の促進に努めていると考えられる。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	口座振替の推進を図り、給水停止の実施により収納率の促進に努めていると考えられる。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">催告書の発送を隔月により、コストの削減に取り組んでいる。</td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	催告書の発送を隔月により、コストの削減に取り組んでいる。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	催告書の発送を隔月により、コストの削減に取り組んでいる。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用者が受益者であるため公平である。</td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	使用者が受益者であるため公平である。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
使用者が受益者であるため公平である。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

徴収率の向上は、持続的なサービスの提供に繋がることから今後も継続的に事業を推進する。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

給水停止の実施及び納付相談の充実を図り、収納率向上に努める。